

安全・安心なまちづくりに取り組む人たち

「災害は忘れた頃にやってくる。」ということわざがあります。災害は、一度起きたからもう起きないというものではなく、いつまた起こるのかわからないものという認識を持つ必要があります。私たちは、次起こる災害に備え、防災意識を高め、それを保ち続けることが大切です。地域で安全・安心なまちづくりに取り組む人々を紹介します。

幼少期の教育が大切

西湊女性防火クラブは、地域での防火活動を25年続けています。小西さんは、幼年期の防災教育の大切さを訴え、平成18年からクラブの有志たちで「わくわく隊」を結成し、活動しています。内容は、保育園に出向き、紙芝居やカードなどを使い、子どもたちに防災について楽しく指導するというものです。

小西さんは、「自然災害は、止めようがない。だからこそ普段からの心構えが大切。防災意識を高め、知識をもっていればいざというときに行動できる。行政だけでは、緊急のときにはすべてに対応できないし、一人の力では、少しのことしかできない。地域の助け合いが、いざというときに大きな力を発揮する。」と語ってくれました。



西湊女性防火クラブ
わくわく隊
小西美津子さん

災害時に機能する組織をつくる

鵜浦町では、5年ほど前から自主防災組織の立ち上げについて町で話し合いがされてきました。鵜浦町は、市街地から離れており、救急車や消防車が到着するのに時間がかかりません。さらに、車両が入れない狭い道がある、高齢者を抱える世帯が全世帯の4分の1を占める、海が近く津波の心配があるなどたくさん課題を抱えています。

そして、能登半島地震を機に平成19年8月に自主防災組織を結成し、もしものときに機能する組織づくりを進めています。

松本さんは今後、ポンプなどの機材操作の確認、防災訓練や避難場所の確認などを行い、もしものときに備えたいとしています。



鵜浦町防災対策委員会
会長 松本米治さん

いままでの訓練が成果を発揮

毎年防災訓練に取り組み、今年で3年目になる小島町2丁目町内会。能登半島地震では、その訓練が大変役に立ったといえます。

小島町2丁目は14の班に分かれています。地震発生時は、電話が全く使えない状況でしたが、いち早く各班長が歩いて各世帯の安否確認、被害状況を調査し、約4時間後の午後2時には班長が集まって状況報告を行ったといえます。

河崎さんは、「町の組織がしっかりしていると感じて生活できる。普段からの交流がいざというときのためにも大切。防災訓練は、町民同士の交流にもなる。今後も続けていきたい。」と語ってくれました。



小島町2丁目避難対策委員会
委員長 河崎俊栄さん

要援護者マップが活躍

南さんは、以前、長野県諏訪市に視察で訪れたときに「緊急連絡体制簿」の存在を知り、緊急時の安

否確認を行う際に誰が見てもわかる地図があったらいいのではないかと、思い、民生委員と協力し、平成17年度に地図作成に取り組みました。



袖ヶ江地区
社会福祉協議会長
南哲雄さん

袖ヶ江地区は高齢者が比較的多い地域です。地図には、町会長宅、民生委員宅、避難場所、65歳以上の老人一人世帯、75歳以上の老人がいる世帯などが色分けして表示され、その世帯の状況が台帳を見ればわかるようになります。



袖ヶ江地区
民生委員
坂本菊枝さん

能登半島地震の際にこの地図をもとに安否確認を行った坂本さんは、訪問したお宅のお年寄りに「心配してくれてありがとね。」と言われ、無事を確認できた安堵とうれしさがこみ上げてきたといいます。

お二人は、「地図にすることで、見えない部分が見える。また毎年更新作業を行うことで、民生委員が地域を認識することにもつながる。」と話してくれました。



自主防災

防災マップをつくろう

東湊小学校PTA育成委員会

東湊小学校の1年生から6年生の児童(約20名)とPTA育成委員が、自分たちの住むまちを探検し、地域の安全な場所、危険な場所を実際に確認して地図を作成しました。

児童一人ひとりが、地域の人とのコミュニケーションを図りながら楽しく情報収集し、防災意識を持つきっかけになりました。

内容

2チームに分かれ、七尾市指定避難場所の確認、佐味町自主防災倉庫、東湊分団器具置き場や東湊地区防犯委員の家の見学とインタビュー、消火栓からの放水体験などを行いました。

地図に示されているもの

- ・主な通学路
- ・車の通行量が多く注意するところ
- ・危険な箇所(池・沼など)
- ・危険な遊び場所
- ・こども110番の家
- ・立入禁止の場所
- ・津波浸水予想地域
- ・地震で被害があった場所



東湊分団器具置き場の見学



消火栓からの放水体験



大田町安全マップ作成チーム



東湊小学校付近安全マップ作成チーム

参加者の声

児童

- ・自主防災組織というものがあるのを初めて知った。
- ・災害にあったときに避難する場所を確認できてよかった。

親

- ・親子で取り組むことで、今まで知らなかった、地域のいろいろな特性(危険箇所など)や避難場所などを確認することができた。



防災マップ作成の様子